



アジアにおける社会福祉実践知についての 国境を越える探究

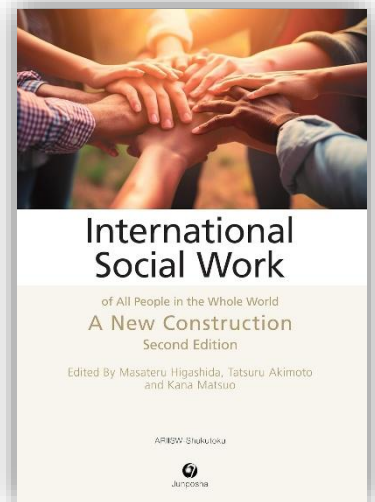
人間科学部 准教授 東田 全央

SDGs目標3「すべての人に健康と福祉を」等にかかわる社会福祉実践（ソーシャルワーク）について、アジア諸国の実践家や研究者らと国境を越えて対話を行っています。そのきっかけは、南アジアの国で、その地の実践家や当事者らと社会福祉活動をともしながら、「あの生き生きとした活動は何なんだったんだろうか」、「日本でいわれるソーシャルワークとはずいぶん違う気がするな」と自問しつつも、何か未来へのヒントを体感したことです。

2030年以降のポストSDGsも見据えて、変わりゆく不確実な世界の中で求められる実践知や諸活動を、立場性を超えて深められれば、と考えています。とくに、アジア諸国において、最も周辺化された人びとを含む社会のニーズに対して、どういった実践が行われ、どのような視点が生かされているのか、共通点や差異はどのようなものか、などをともに探究しているところです。それらの知見は国内においても多くの示唆や学びをもたらすことが期待されます。国内にのみ焦点が当たりがちなソーシャルワーク教育にもそういった国際的な知見を取り入れているところです。



スリランカ・国立社会開発学院との共催会議（2023年11月）



最近の共編著書籍
(Higashida, Akimoto et al., 2024)